



原油先物下落、サウジ産油量が近く1000万バレル超との報道で

[ニューヨーク 4日 ロイター] - 米国時間の原油先物は序盤の上昇から一転下げに転じた。サウジアラビアの産油量が近く新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）発生以来初めて日量1000万バレルを超えるとの報道を受けた。

これに先立ち、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなどの非加盟産油国で構成する「OPECプラス」は4日に開いた閣僚級会合で、協調減産幅を毎月日量40万バレルずつ縮小する現行の計画を12月も維持することで合意した。

清算値は、北海ブレント原油先物が1.45ドル（1.8%）安の1バレル=80.54ドル。序盤には84.49ドルまで上昇していた。

米WTI原油先物は2.05ドル（2.5%）安の78.81ドル。この日の高値は83.42ドルだった。

2日終値からはブレント先物で約5%、WTIで約6%下落している。



ENEOS・出光興産の仕切り改定 (水曜通知 単位:円/ℓ)

	油種	ENEOS	出光興産
10月第3週 (14~20日)	ガソリン	2.5	3.0
	軽油	2.5	3.0
	灯油	2.5	3.0
	一般A重油	2.5	
	LSA重油	2.5	3.0
10月第4週 (21~27日)	ガソリン	3.0	2.5
	軽油	3.0	2.5
	灯油	3.0	2.5
	一般A重油	3.0	
	LSA重油	3.0	2.5
10月第5週 (10月28日~ 11月3日)	ガソリン	0.5	0.5
	軽油	0.5	-0.5
	灯油	0.5	0.5
	一般A重油	0.5	
	LSA重油	0.5	0.5
11月第1週 (4~10日)	ガソリン	▲1.5	▲1.5
	軽油	▲1.5	▲1.5
	灯油	▲1.5	▲1.5
	一般A重油	▲1.5	
	LSA重油	▲1.5	▲1.5

サウジ調整金の下落効く

大手元売の仕切り改定は、久しぶりに下落に転じた。ENEOS、出光興産の4日以降の改定幅はいずれも前週比で1円50銭の下げ。値下げ改定は8月最終週以来10週ぶり。ただ今回の下落の大部分は、10月分のサウジアラビア調整金の変動によるとみられる。原油コスト自体の下落は小さく、先安が今後も継続するかどうかは不透明だ。別表参照。

2元売社
10週ぶり値下げ

ENEOS・出光 1円50銭

週ぶり。算定期間中、原油相場が弱含むとともに為替が円高に転じたことに加え、サウジ

出光

アラビア原油の調整金引き下げがコストを押し下げたとみられる。

出光興産は、4日から10日出荷分に適用する石油製品仕切価格を10週ぶりに引き下げ

る。系列特約販売店によると、引き下げ幅はガソリン、灯油、軽油、A重油の4油種ともに前週比で1円50銭という。

サウジアラビア調整金に加えて、原油コストも当週は小幅ながら下落に転じた。出光が前回、仕切価格を引き下げたのは8月26日。当時は世界的な新型コロナウイルスの感染再拡大を懸念して、原油価格が軟化した。

ENEOS

ENEOSは、4日から10日に適用するガソリン、中間留分「基準価格」の改定方針を決め、系列特約店に通知した。特約店筋によるとガソリン、灯油、軽油、一般A重油、LSA(低硫黄)A重油の全油種が前週比で1円50銭の値下げだった。価格引き下げは5油種とも8月26日、9月1日(2円)以来、10



10月の世界の食料価格、3カ月連続で上昇 FAO調べ

【ウィーン=細川倫太郎】国連食糧農業機関（FAO）が4日発表した10月の世界の食料価格指数(2014~16年=100)は、前月比4.0ポイント高い133.2と3カ月連続で上昇した。2011年7月以来10年3カ月ぶりの高水準で、小麦や植物油を中心に値上がりしている。

同指数は肉類や穀物など主要5品目の国際取引価格から算出され、投資家や企業からの注目度が高い。10月は前年同月比では31.8ポイント上昇した。食料価格の上昇は特に主食を輸入に頼る途上国への打撃が大きく、貧困に拍車がかかる恐れがある。

FAOによると、小麦はカナダ、ロシア、米国での収穫減少で需給が逼迫し、価格の上昇圧力が高まっている。大豆油や菜種油の旺盛な需要を背景に、植物油の価格は過去最高を更新した。パーム油は主要産地であるマレーシアで外国人労働者が不足し、供給が細る懸念が強まっている。





エネルギー R D 給油拠点開設 海老名皮切り名阪視野

トラック
向け国内初

伊藤忠エネクスと伊藤忠商事、東部ネットワークは日本で初めて、商用車トラック向けのリニューアブルエネルギー（RD）給油拠点を開始した。国内陸上輸送分野の再生可能資源由来の燃料供給ビジネスに本格参入し、循環型経済と脱炭素社会の実現を

目指す。

RDの給油拠点（東部ネットワーク海老名営業所）神奈川県海老名市）の常設は国内で初めての取り組みで、同営業所の燃料油の地下タンクを利用する。RDの利用を通じて荷主企業および陸上輸送企業へのGHG（温暖化ガス）排出削減を可能にする。

タンクの容量は10立方メートルとなる。需要に合わせて拡大する方針で、今年度中には拠点を1カ所増やす考えだ。また将来的に名阪エリアでも拠点を視野に入れている。

伊藤忠商事は、世界最大級のリニューアブル燃料メーカーのNESTE（本社フィンランド）グループとの間でRDの日本向け輸入契約を締結した。エネクスは、同燃料の国内の輸送および給油に係る一連のサプライチェーンの構築を担う。RDは食品競合の多い廃食油や動物油などを原料として製造され、ライフサイクルアセスメントベースで見るとGHG排出量で石油由来の軽油比約90%削減を実現する。主に輸送用トラック・バスなどで使用され「ドロ

ップイン」燃料として、既存の車両や給油関連施設をそのまま利用開始することが可能。欧米を中心に流通実績をもつ。これまでファミリーマートで日本初となるコンビニ配送車両、またコンテナドレーシ輸送車両など利用が増え、今後の陸上輸送分野での利用拡大が期待されている。

「ドロップイン」燃料として、既存の車両や給油関連施設をそのまま利用開始することが可能。欧米を中心に流通実績をもつ。これまでファミリーマートで日本初となるコンビニ配送車両、またコンテナドレーシ輸送車両など利用が増え、今後の陸上輸送分野での利用拡大が期待されている。

「ドロップイン」燃料として、既存の車両や給油関連施設をそのまま利用開始することが可能。欧米を中心に流通実績をもつ。これまでファミリーマートで日本初となるコンビニ配送車両、またコンテナドレーシ輸送車両など利用が増え、今後の陸上輸送分野での利用拡大が期待されている。

ウメモト インフォメーション

2021年 11 月 5 日 担当 小松

大林組ら3社／トンネル覆工の剥落対策工法を開発／薄層塗布で強靱な塗膜形成



ワンバインドスプレー吹き付け（報道発表資料から）

大林組とコニシ、ケミカル工事（神戸市東灘区、國川正勝社長）の3社は、老朽化したトンネル覆工コンクリートの剥落対策が急速施工できる工法を開発した。特殊な化合物を使い薄層塗布でも強い塗膜が形成できる「ワンバインドスプレー」を使用。工程数が多かった従来工法の繊維シート接着が不要になり、作業時間を35%に短縮できる。

東日本高速道路会社が発注したトンネル工事で試行し効果を確認した。従来は▽下地処理▽プライマー塗布▽繊維シート貼り付け前の不陸修正▽接着剤塗布2回▽繊維シート貼り付け▽仕上げ-の7工程が必要だった。

ワンバインドスプレーは繊維シートを使わず、下地処理とプライマー塗布、剥落防止材吹き付けの3工程で作業が完了する。

反応性に優れた特殊な化合物（イソシアネート）を塗布材料に配合。薄層塗布でも強固な塗膜を形成し、所定の押し抜き性能を発揮する。材料を混合する必要がなく安定した品質を確保できる。塗布量は吹き付け材料の30～50%程度。燃焼時に発生する有毒ガスが基準値以下となりトンネル坑内でも使用できる。吹き付けに適した粘性に調合した材料を薄層吹き付けすることで課題だった「液だれ」も防ぐ。

工法の材料は厳しい基準が設けられたNEXCO規格に準拠。想定剥落塊の荷重が0.5キロニュートン以下のコンクリート片の場合に適用される「小片剥落対策工」に対応する。延焼性や自己消火性、発生ガスの安全性試験に合格した国内唯一のネットレス剥落対策工法となる。3社は高速道路のリニューアル工事に積極的に活用。交通規制期間の短縮や渋滞の緩和、トンネル覆工補修の品質向上に努めていく。